



全国リレーエッセー
宮崎県

「どげんかせんといかん」「地鶏」「マンガ」と今、言えは、そうです。宮崎です。自治医大を卒業して宮崎に帰り、はや十六年がたちました。卒業時で、人生の四分の一を過ごした栃木県が、私にとって第二の故郷です。

唯一の医療機関

実を言いますと、私は自治医大を卒業して宮崎の田舎を回り、義務年限が終わったら自治医大に再び戻る予定もありました。しかし田舎の先生が病氣のため急に辞められ、一時無医町になるといふことで、町が定住医師を探していました。なかなか医師が見つからず、

考え方一つで幸、不幸に

結局、もうすぐ義務年限が終わる私に白羽の矢が立ちました。自治医大を卒業したこと、タイミングなど、これも何かの縁と感じ、宮崎の田舎に開業して、もう七年目になります。

へき地にかかわらず病氣の人と接して思うことがあります。健康な時は幸せと分ならず病氣

になつて健康の大切さ思ったり、仕事があつて収入がある時はある時でその多い少ないを考えた時、常に人それぞれ幸、不幸を感じています。

まさに人間の幸、不幸というのは周りの状況や、与えられた環境によるのではなく、自分の思いの中ですべてあるということだろうと思えます。幸福になりたければそのように考えなければ幸せになれません。時間は誰にも等しく二十四時間与えられていますがその過ごし方、心の思いは人それぞれさまざまです。

脳梗塞(こうそく)で半身がまひしても、「なぜ私だけこうなつたのか? 不幸だ」と思う人もいますし、「死ななくて良かった。まだこんなことはできる。これからリハビリして頑張るぞ」という人もいます。病氣になることは非常に嫌なことです。日常生活が制限される場合もあり大変ですが、病氣もいろいろあります。軽い病氣でも自分が不幸と思えば不幸ですし、ダメだと思えば食欲もなくなり悪くなることもあります。

そんなことなども患者さんに語りながら地域医療を行っています。私自身も田舎では現状に甘んじてしまう傾向があるため、一歩でも前進するように医療の医療やサービスの質を高めようとISO9001の認証取得をしたり、専門医として鼻からの胃カメラを導入したりしています。

ひだか のり
日高 孝紀 14期生、1991年卒



患者さんが元気になることが一番うれしいこと。この98歳の女性は食欲がなくなり入院したが、歩いて元気に退院した

北方医院

【私の勤務地】北方医院は、人口5000人弱の北方町(現在、合併して延岡市となった)に公設民営の形で開業した。北方町唯一の医療機関で、19床の有床診療所。延岡市市街地まで通常約20分を要する。

自然治癒力に差

進行ががんになったとしても、交通事故で突然、死んだわけ

(次回予定は福井県)